

東京製綱（社長・原田英幸氏）と斜面災害を防止する工法の研究・開発に取り組むCCM（ケーブル構造山腹工）協会は2日、徳島県那賀郡那賀町で落石対策工「ハイアーネットHE-200型」の



原田社長が挨拶

落石対策ネットを公開実験

幅広いラインアップで防災・減災担う

公開実験を実施した。東京製綱社員やCCM 150人が参加した。会員、施工・工事会社、行政関係者、設計コン



斜面を滑走する重錘、前面にハイアーネット

「ハイアーネット」シリーズは、軽量で施工性の高い落石防護ネット。柔軟で強靱な高強度金網と、緩衝装置からなる4種のラインアップを持ち、最大2800kgの衝撃に対応する。今回実験の対象となったのは、これ

から本格採用を狙う新型「HE-200型」。実験方法は、車輪を付けた0.48トの重錘を斜面上部（おもり）から開放し、レールを55度で、レールの全長は70m。多くの人が見守る中、カウントダウンが行われ、重錘がレールを滑走。200kgの衝突エネルギーが、40周年を迎える。人々の命に直結する責任として捕捉した。その後の質疑応答では、他シリーズとの差別化や技術的な特徴についてなど、参加者と活発に意見を交換した。

